

第50回 鳥取市文化賞受賞者

やまね りょうかい
山根 亮海〔書道〕



【受賞理由】

毎日書道展では25歳の若さで会友・公募の最高賞である毎日賞を初受賞。二度目の受賞を経て若干35歳にして会員に昇格。独立書展では2019年に準会員賞を受賞し、2024年には最高賞である会員賞を40歳で受賞、審査会員へと昇格するなど若くして頭角を現す。

また、2009年に鳥取城北高校に着任。翌年書道部を創設し、顧問として後進の育成にあたる。全国公募書道展での文部科学大臣賞を始め上位入賞を果たす部員を多く輩出しており、特に、「書道パフォーマンス甲子園」における第16回、17回大会の優勝・文部科学大臣賞受賞という輝かしい成績を部員と共に掴んだことは、指導者として特筆すべき点である。

【経歴】

平成14年 (公財)独立書人団に入会以降「独立書展」「毎日書道展」へ継続出品
平成18年 東京学芸大学教育学部中等教育教員養成課程書道専攻卒業
平成18年 鳥取県立高等学校常勤講師
～平成20年
平成21年 鳥取城北高等学校 着任(平成24年より教諭)
平成22年 同校に書道部を創部
平成30年 (一財)毎日書道会 会員昇格
平成31年 (公財)独立書人団 会員昇格
令和6年 (公財)独立書人団 審査会員となる
令和6年 鳥取書道連盟理事長 就任
鳥取県書道連合会常任理事 就任

【受賞歴】

平成21年	第61回毎日書道展	毎日賞(大字書部)	「廻」
平成25年	第65回毎日書道展	佳作賞(漢字Ⅱ類)	「花對池中…」
平成26年	第66回毎日書道展	毎日賞(大字書部)	「在」
平成29年	第38回鳥取県書道連合会展	鳥取県知事賞	「華」
〃	第69回毎日書道展	佳作賞(漢字Ⅱ類)	「登龍門」
平成31年	第67回独立書展	準会員賞(会員推挙)	「雲龍」
令和3年	第65回鳥取県美術展覧会	県展賞	「雲從龍」
令和6年	2024年独立選抜書展	会員賞	「梅」
〃	第68回鳥取県美術展覧会	県展賞	「白夢中」

【芸歴・著作歴】

鳥取県立鳥取東高等学校在学中、柴山抱海氏に出逢い薫陶を受けたことにより書の道を志し、以来師事。

高校卒業と同時に柴山抱海氏が代表を務める「山陰書人社」に入会する。

書道教員を志し上京、大学1年次より全国組織の書道団体「(公財) 独立書人団」「(一財) 毎日書道会」に入会、以降独立書展、毎日書道展への出品を重ねている。

県内においては、山陰書人社展をはじめとし、鳥取市民美術展、鳥取県美術展覧会へ出品を重ね、現在は両展とも無鑑査資格。また、所属する鳥取書道連盟、鳥取県書道連合会の主催する各種展覧会へも出展を続け、活躍の場としている。

また、大学卒業後帰鳥し、県立高校の講師を経て2009年に鳥取城北高等学校に着任。翌年書道部を創部し、顧問として後進の指導・育成にあたり現在に至る。「全国高校生大作書道展」での文部科学大臣賞1名、大作大賞2名の他、「国際高校生選抜書展」での準大賞2名、中国地区団体優勝等、全国公募書道展で上位入賞を果たす部員を多く輩出。全国高等学校総合文化祭には県代表として過去10名の部員が出品している。

書道パフォーマンスにも精力的に取り組む。毎年、愛媛県四国中央市にて開催されている「書道パフォーマンス甲子園（全国高等学校書道パフォーマンス選手権大会）」には6大会連続7回の出場を果たしている。第15回大会（2022）の準優勝を経て、第16回（2023）、第17回（2024）大会において、優勝・文部科学大臣賞という輝かしい成績を部員と共に掴んだ。

大会参加の他、地域のイベントでの書道パフォーマンス披露をはじめ、鳥取市・兵庫県新温泉町の小学校での書道パフォーマンスを通じた交流、幼稚園での書道体験交流等を実施、書道に触れる機会の創出を積極的に行っている。

また、四国中央市が主催する「書道文化醸成事業」（令和5・6年度）の講師に招聘され、小学校・中学校等での講演の他、書道のワークショップや書道パフォーマンス体験を実施するなど、書道の継承と普及に努めている。

【作品に対する思い】

「熱情を書に託せ」

書の道を志した18歳の時、師が伝えてくださった言葉が、常に傍にあります。「書は熱からしか生まれない」ともおっしゃいました。力漲る、熱の籠った逞しい書、生命感に溢れる書の創造を根底において向き合ってきたように思います。見てくださる方々へ訴えかける力に満ちた、説明の出来る仕事を心掛けたいと思い筆を執ってきました。

壮年となり、これまでとは異なる書風、表現の模索も必要だと感じています。古典に立脚した上で、新たな自分の世界を切り拓いていけるよう、一層の精進を重ねていきたいと思っています。

また、自分が書きたいと思う素材との出逢いをこれからも大切にしていきたいと思っています。「今の自分だから書ける、書かなければならない」…様々な経験や出逢いの中で、内から湧き起こる感動をどの文字に、どの言葉に託して表現しようか、その歩みを繰り返してきました。過去の作品を振り返ると、自分の年表を示すかのように感じる場合があります。

今後見るもの、聞くもの、そして自分自身の心の動きにアンテナを張り、受け止める力を磨く中で、たまたま書きたいと思える素材に向き合い、自分らしく墨線を刻んでいきたいと思っています。

【活動に対する思い】

「誰の為に、何のために書道をしているのだろう…」そのようなことを考え始めるようになりました。

目まぐるしく様々な技術が進歩する現代、手で文字を書く機会すら減っていく中、筆で文字を残すことの意味、芸術としての書の存在意義とは何か…。

時代の流れに逆らうように伝統文化が見つめ直され、大切にされる風潮や流行に皮肉ささえ覚えることもあります。

中々結論には至りませんが、ただ純粹に、筆で文字を書く楽しさ、自分の手で書いた文字を届ける素晴らしさ、目に見えない想いを文字に託して表現する喜びを、1人でも多くの方に知ってもらいたい、感じていただきたいと思っています。

書の継承と更なる普及…大げさかもしれませんが、1人の書道人として、自身の作品を書芸術の高みへと昇華させるため、精進を重ねることはもちろん、自分に果たせること、果たすべきことを、筆を執りながら考え続け、向き合っていきたいと思います。